

聖学院大学総合研究所 アクティブ・ラーニング研究会主催 FD・SD 委員会共催  
**2018年度 アクティブ・ラーニング研究会**  
 稲葉興己「玉川大学におけるアクティブ・ラーニングの推進と学修成果の可視化」



講師：稲葉興己氏

2018年10月22日（月）、本学上尾キャンパスにおいてFD・SD委員会共催によるアクティブ・ラーニング研究会が開催され、参加者は教職員を合わせて28名で盛会であった。本年度は玉川大学教育学部長の稲葉興己氏を講師としてお招きして、「玉川大学におけるアクティブ・ラーニングの実践と学修成果の可視化に向けた取り組み」と題してご講演頂いた。本研究会では過去に二度、玉川大学におけるアクティブ・ラーニング（以下、ALと略記する）型授業の実践をご紹介いただいたが、今回は主にそうした授業の「推進と体系化」という枠組み作りに関する先駆的な取り組みに関してご講演頂いた。本報告では玉川大学で実施されている「ALの推進」と「学修成果の可視化」の仕組みについてまとめた。

稲葉氏によると、玉川大学ではALを推進するために定期的にワークショップを開催しており、2017年度では専任教員の79.9%が授業にALを導入している。その手法は数年前までは「ディベート」が有効であると思われていたが、近年では「ディスカッション・ボード」の使用が能動的に学ぶ姿勢や問題解決能力、そして授業外での学修時間の増加に効果が見られた。また、毎年各学部の代表者によるALの事例報告会を催して内容を吟味し、昨年度からはそれを学外にも公開することで外部

からの意見や情報共有を図っている。そして玉川大学では全教員が参加するFDプログラムを実施しており、本年度はそれをいっそう推進するためにファカルティ・デベロッパー 9名を育成し、各学部（8学部）に1名ずつ配置すべく準備を進めている。

授業内でALを実施した後の記録としては、アメリカやカナダでの先進的な事例を参考にして、ティーチング・ポートフォリオを導入している。そこへ記載する内容は以下の10項目である。①教育上の義務（担当・科目等）、②教育上の理念と目的、③教育方法、④授業科目に関連した教材開発、⑤学生の授業評価、⑥学生の学修成果、⑦授業改善の活動、⑧教育力向上のための取り組み、⑨特筆すべき教育上の取り組み、⑩今後の目標。玉川大学ではこれらの項目を踏まえた電子ポートフォリオの作成を支援するために、「メンター」を設置した。この「メンター」は初めに学外の研修を受けた2名の教員からスタートしたが、徐々にその数を増やして全学科に1名ずつ配置することができた。その際に、各メンターはあえて所属学科とは異なる学科を担当することで、忌憚なくよりよいポートフォリオの作成に向けた助言を可能にしている。そして玉川大学における「学修成果の可視化」において中心的な役割を果たすものは「学



会場の様子

生ポートフォリオ」と「ルーブリック」である。前者についてはシラバスと連動させて、その授業を履修することでどのような力を習得できるのかが示されている。同大学では育成する学士力（コンピテンシー）を「知識・理解」「汎用的能力」「態度・志向性」という三つの大別からそれぞれ詳細な能力を規定しており、それをレーダーチャートで示すことによって、学生が履修した「科目」としてではなく、身につけた「能力」によって可視化されている。そして成績評価の基準としてはルーブリックによる客観的な評価が推進されている。そのためすべての教員がかならずルーブリックの活用方法に関するワークショップに参加することを義務づけているが、まだ70%を超える教員がそれを活用できていないとのアンケート結果が出た。ところがそもそもこのアンケートは回答率が13.9%と低いので、ルーブリックを活用しておらず、またアンケートにも回答していない教員が多数を占めていると考えられる。これへの対応として打ち出したのは、教員個人にその作成と運用を任せるのではなく、大学として組織的に関与して「コモン・ルーブリック」を作成することであった。確かにそれぞれの授業は各教員が担当するものではあるが、それは教員個人の授業というよりも玉川大学の授業であることから、学生の学修成果は組織的に管理されて共有されるべきであると講演者は言う。このような取り組みは、学修の成果を「学生自身に対して」可視化しようとする優れた事例であると言えるだろう。

もはや今日の学士課程教育にとってALが不可欠な要素であることに異を唱えるものはほとんどいない。ところがそれを体系的に設計し、その学修成果・成績評価を可視化することの必要性は指摘されてはいるものの、まだ広く浸透しているとは言いがたい。それゆえ玉川大学による組織的な実践を学ぶ機会を得たことは、その場に集った本学の教職員が今後の本学での教育が進むべき方向性を考えるにあたって価値ある指針の一つとなったに相違ない。

(報告者：齊藤 伸 [さいとう・しん] 聖学院大学基礎総合教育部特任助手)

# 本

## 書籍のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

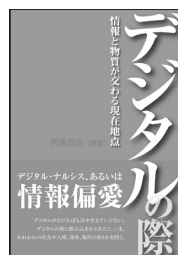
健康科学  
ヘルスプロモーション  
和田雅史・齊藤理沙子 著  
2016年2月29日発行  
2,500円（税別）



人を取り巻く環境への働きかけをも目標とする「ヘルスプロモーション」に基づく健康科学を解説。

### デジタルの際

——情報と物質が交わる現在地点  
河島茂生 編著  
2014年12月25日発行  
2,000円（税別）



デジタル化し、脱物質化する現在、我々の社会や心理、身体のかかわりを問う。

### ベイズの誓い

——ベイズ統計学はAIの夢を見る  
松原 望 著  
2018年6月20日発行  
3,200円（税別）



AIの元祖であるベイズ統計学の基礎から最新の応用までを学ぶ。

### 魔女は真昼に夢を織る

松本祐子 著  
イラスト 佐竹美保  
2016年12月10日発行  
2,300円（税別）



創作ファンタジー3作と物語の〈魔法〉をめぐる論考とコラム。

聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324  
URL:https://www.seigpress.jp/